



学位論文要旨

学籍番号 Student I.D. No.: K 0 1 S 0 1 0 - 1

学生氏名 Name: 野長瀬 裕二

題名 Title

地方の工業集積地域における産業活性化策に関する研究

文字数 number of words: 日本語 約 2,000 字

第一部 本研究の概要、目的とその方法

本テーマ選定に際しては、都内に本社を置く製造企業及び地方工業集積地域に立地する大学における筆者の職務経歴を通じて培われた問題意識がその契機となっている。

本研究は、1)学際的な研究アプローチ、2)現場主義に基づく政策論、3)グローバルな視点、4)実践的な分析、の4つの特長を有している。本研究の目的は、「地方の工業集積地域における産業活性化策の在り方を明確化すること」とする。

本研究の方法は、1)先行研究の体系的分析、2)地域産業活性化策の体系的分析、3)国内外の活力ある地域産業事例の幅広い分析、4)事例工業集積地域の産業集積、産業活性化策、企業家活動等の実践的な分析、実践研究を通じて得られた知見の分析、を基礎として研究目的を達成しようとするものである。

第二部 本研究に関連する先行研究

本研究においては、多岐にわたる先行研究を、1)産業集積、産業立地等に関する諸理論、2)イノベーション、企業家等に関する諸理論、3)産業政策、企業家支援等に関する諸理論、の3領域に分類し、体系的にサーベイし、それらを分析している。

産業集積、産業立地等に関しては、Marshall, A.、Weber, A. らの古典的業績に、Krugman, P.、清成忠男、Porter, M. E.、Saxenian, A. らの現代的業績を加えて論じている。

イノベーション、企業家等に関しては、Schumpeter, J. A. らの古典的業績に、野中郁次郎、清成忠男、松田修一らの現代的業績、海外研究者らによる先進的業績を加えて論じている。

産業政策、企業家支援等については、我が国の政策に関する伊藤元重、小宮隆太郎、橋本寿朗らの業績に、海外研究者らによる先進的業績を加えて論じている。

第三部 地域産業活性化策の体系、構成要素、成功要因等

本研究においては、地域産業活性化策を、1)地域範囲の視点に基づく地域産業活性化策

の体系、2)政策分野の視点に基づく地域産業活性化策の体系、の二系統の体系に基づき論じている。産業、市場等に関する諸政策、産業立地政策、企業家支援政策について、各歴史的展開を論じている。

地域産業活性化策の構成要素としては、地域産業の管理過程、地域産業の主たる経営資源、インフラについて、それぞれ論じている。

また、国内外の活力ある工業集積地域事例とその成功要因等について、地域産業活性化に向けた取り組み事例について、それぞれ論じている。

海外の事例としてはシリコンバレーモデル、イタリアモデル、オースチンモデル等を取り上げ、国内の事例としては、多摩地域、浜松地域、北上・花巻地域等を取り上げている。

その他、工業集積地域におけるビジネスコーディネータの活動について論じている。

地域産業活性化策の成功要因と課題について各事例から抽出した。

第四部 事例地域における実践研究

筆者の産学官交流活動の基盤であった群馬県太田地域、群馬県、首都圏北部地域を事例として取り上げ、その産業集積、産業活性化策の流れについて分析する。

その後、事例地域の企業家活動等について、1)地域の製造企業、2)意欲的企業、3)新分野進出企業、4)群馬県の中小創造法認定企業、5)首都圏北部地域のフロントランナー企業、に関する網羅的精査を行う。

そして、事例地域の経営資源、インフラの諸課題について論じ、一次インフラ、二次・三次インフラの詳細な分析表を作成した。また、若手企業家が少ない原因を探るため、地域の高校生・大学生の意識調査を実施している。

諸課題を解決するため、事例地域で筆者が実践してきたコーディネート活動を通じて得られた知見についてまとめ、弱連結／強連結、ハンズオフ／ハンズオン、が複合化したネットワークキングについて可能性を示している。

そして、首都圏北部地域の産業クラスター組織立ち上げの実践から得られた知見についてまとめ、事例地域に相応しい産業クラスター組織、そのコンセプトや成功イメージ、テクノロジー志向のイノベーション創出手法について示している。

第五部 地方工業集積地域における産業活性化策の在り方

第五部においては、第四部までに得られた知見等を基盤として、地方工業集積地域における産業活性化策の在り方を示すこととする。

グレードアップ型地域産業活性化策のロジックについて論じた後、ポジショニング分析、ファンダメンタルズ分析、インフラ分析による新たな地域産業活性化策立案の視点を示す。

イノベーター集積の経済性という概念を中核とし、R I S (地域イノベーション創出システム)の構築策、そのサブシステムであるR I G (地域イノベーション発生機構)の構築策について提案し、本研究のまとめを行い、今後の課題について論じている。